資料４－１

読書バリアフリー推進に係る令和５年度事業報告

鳥取県立図書館

１　アクセシブルな資料等の収集及び利用状況について（令和６年３月末現在）

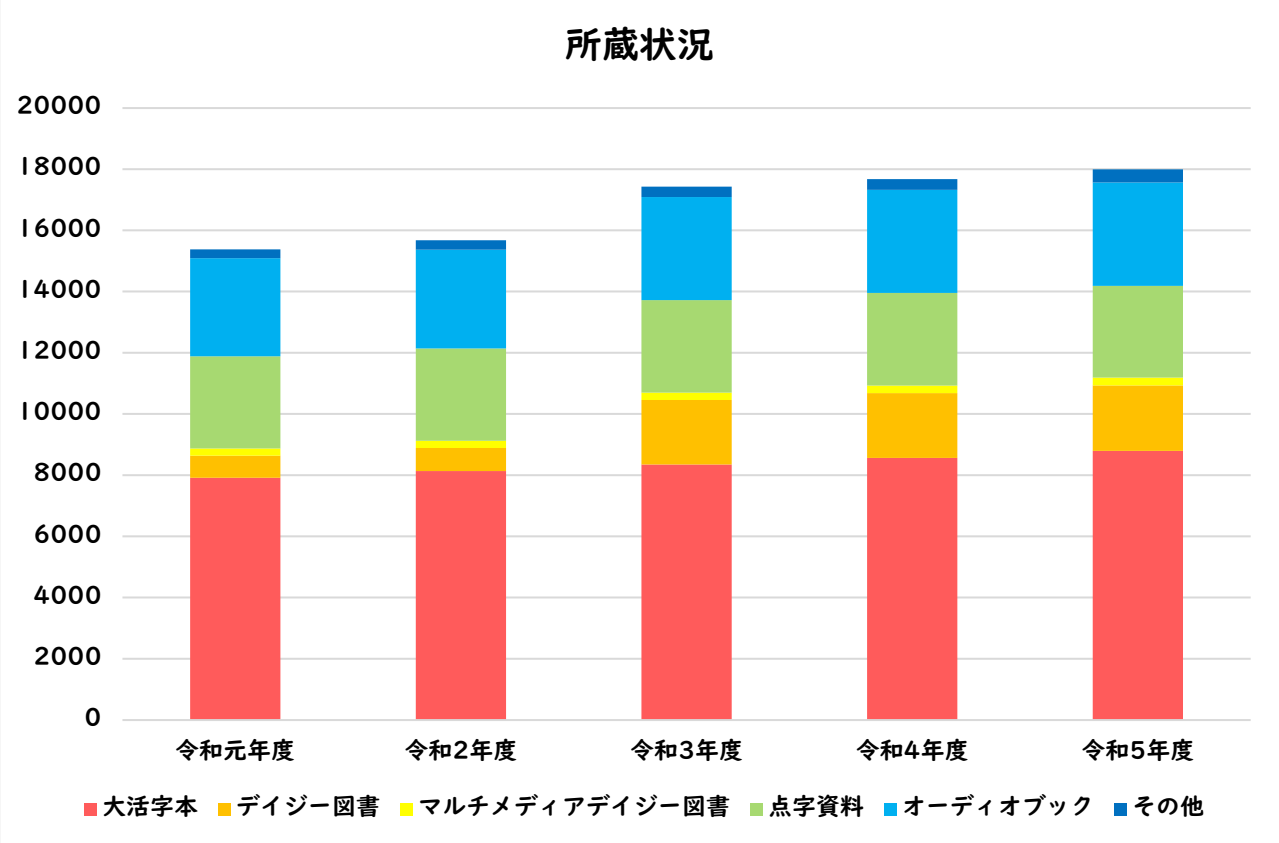
（１）所蔵状況について

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
全体	15,379(633)	15,676(297)	17,428(1,752)	17,674(246)	17,995(285)
大活字本	7,916(547)	8,132(216)	8,348(216)	8,563(215)	8,791(197)
デイジー図書	722(7)	756(34)	2,108(1,352)	2,117(9)	2,141(28)
マルチメディア デイジー図書	231(18)	237(6)	243(6)	247(4)	256(9)
点字資料	3,014(7)	3,017(3)	3,023(6)	3,029(6)	2,996(5)
オーディオブック	3,209(40)	3,226(17)	3,364(138)	3,367(3)	3,381(14)
その他	287(14)	308(21)	342(34)	351(9)	430(32)

※（ ）は受入数

※令和5年度中にデイジー4 点除籍、点字資料 38 点除籍

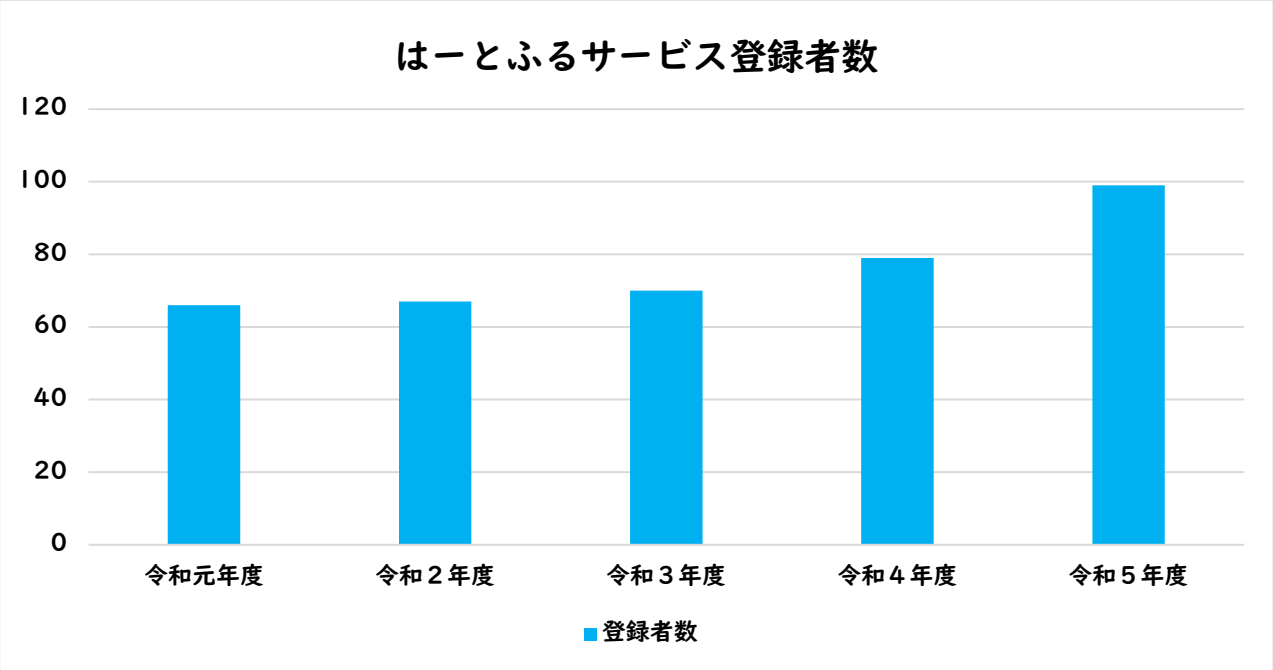
※令和4年度以前に受入していたが計上していなかった資料：大活字本 32 点、その他資料 47 点



（2）利用状況について

ア　はーとふるサービス新規登録者数　20 名（はーとふるサービス登録者数　計 99 名）

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
全登録者数	66	67	70	79	99
新規登録者数	3	1	3	9	20



【登録者内訳：居住別】

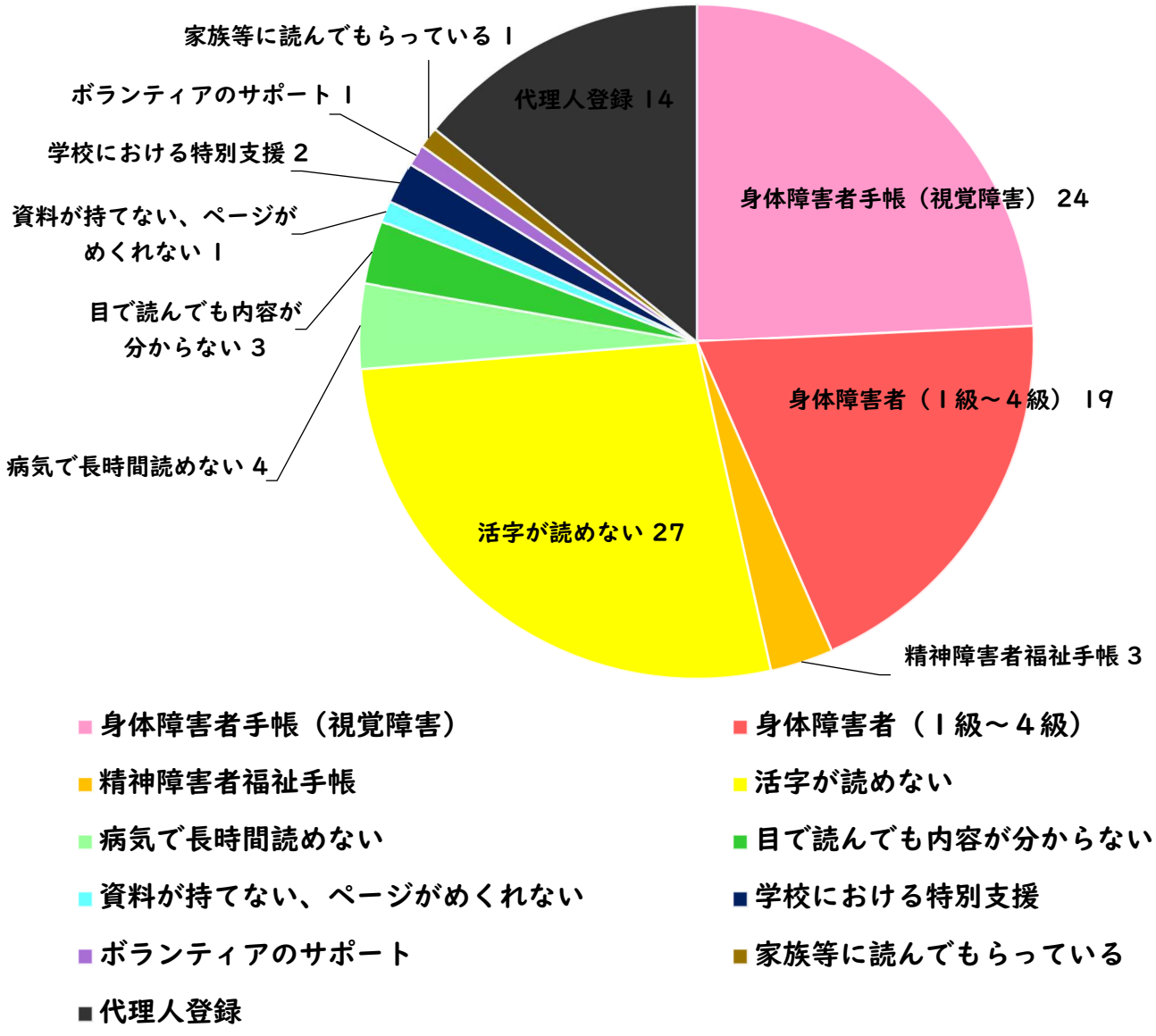
鳥取市 92 名（18 名）、米子市 1 名（1 名）、倉吉市 1 名、八頭郡 4 名、岩美郡 1 名（1 名）　計 99 名

※（　）は令和５年度登録者

【登録者内訳：障がい種別】

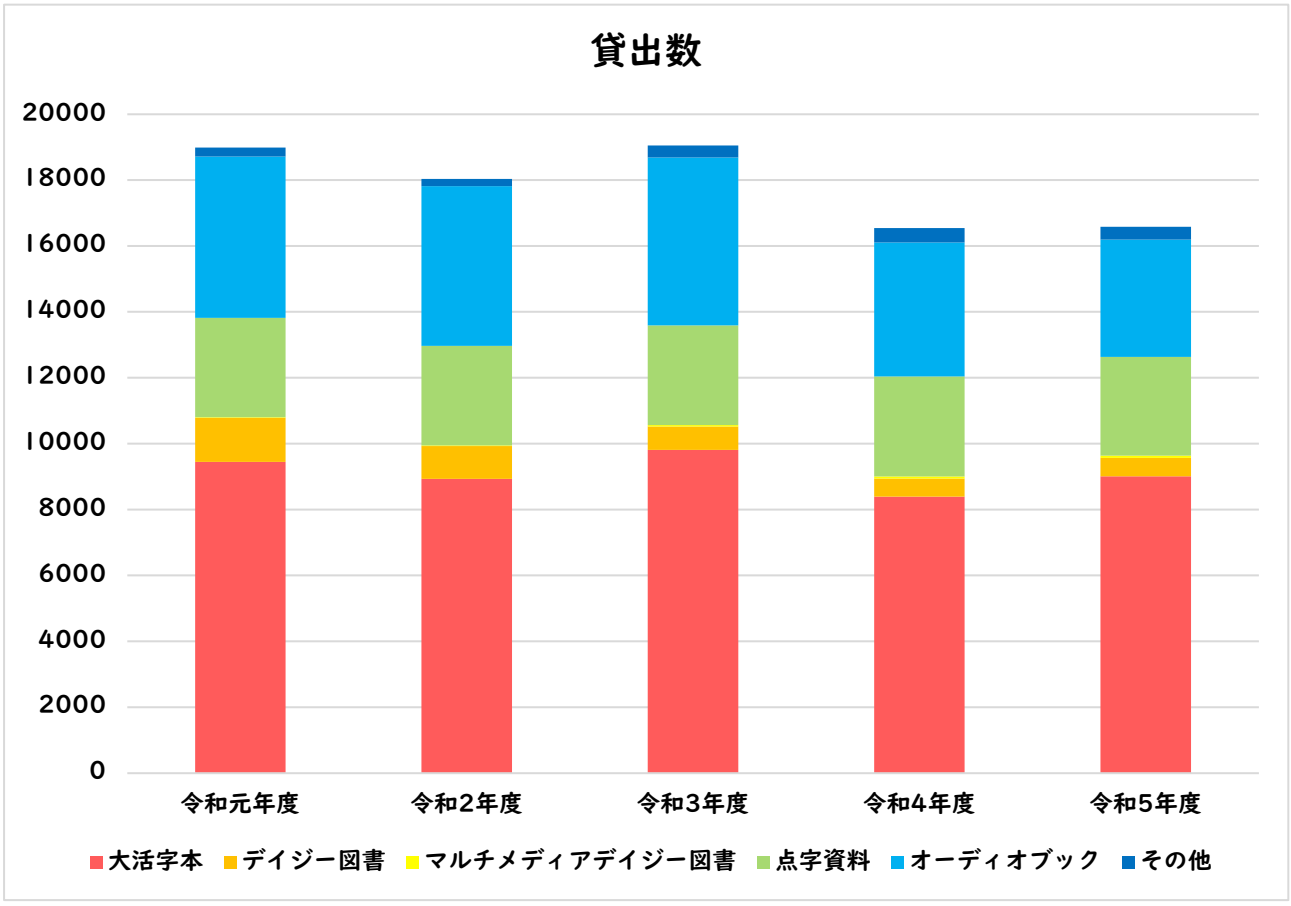
	障がいの区分	人数
1	身体障害者手帳（視覚障害）	24
2	身体障害者（1 級～4 級）	19
3	精神障害者福祉手帳	3
4	活字が読めない	27
5	病気で長時間読めない	4
6	目で読んでも内容が分からない	3
7	資料が持てない、ページがめくれない	1
8	学校における特別支援	2
9	ボランティアのサポート	1
10	家族等に読んでもらっている	1
11	代理人登録	14
	合計	99

はーとふるサービス登録者内訳



イ　貸出数　16,858 点（令和５年度）

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
全体	18,987	18,033	19,047	16,541	16,858
大活字本	9,446	8,931	9,810	8,390	9,007
デイジー図書	1,335	995	711	548	561
マルチメディア デイジー図書	19	20	41	63	66
点字資料	3,016	3,020	3,029	3,039	2,999
オーディオブック	4,896	4,850	5,095	4,065	3,562
その他	275	217	361	436	663



（3）はーとふるサービスの充実について

ア　電子書籍の導入（資料4―2）

「鳥取県立図書館電子書籍サービス」

令和５年12月１日から令和６年１月３日まで読書バリアフリー対応等のための試験運用実施

・【報告／利用案内】「鳥取県立図書館電子書籍サービス」における読書バリアフリーへの対応
https://www.library.pref.tottori.jp/info/post-271.html

令和６年１月４日から本格運用開始

・主な特徴

〇２４時間利用可能

〇非接触・非来館での利用可能

〇文字の拡大が可能

〇全文（テキスト）検索や音声読み上げ、印刷ダウンロード機能あり（※一部非対応の資料あり）

・利用案内
http://www.library.pref.tottori.jp/guidance/post-18.html

イ　マルチメディアデイジーの製作：わいわい文庫「日本昔話の旅」（伊藤忠記念財団実施事業）

タイトル：「うつぶきやまのてんにょ」

テキスト：「うつぶきやまのてんにょ」（紙芝居、出版：倉吉青年会議所）

イラスト：倉吉東高校（美術の探究学習）

音　声：音訳ボランティアグループありんこ

ウ　機器の購入

電子ルーペ「クローバー４」（4.3インチ）：１台

携帯型拡大読書器「クローバー10」（10インチ）：１台

デイジー図書再生機「エンヴォイコネクト」：１台

スタンドルーペ（閲覧机に設置するルーペ）：２個

ハンドルーペ：３個

エ　はーとふるサービスリーフレットの改訂

2　鳥取県読書バリアフリー推進に係る関係者協議会の開催

第１回　８月２５日　　第２回　２月１６日

3　研修・講座・イベント等の実施

６月２１日　認知症本人ミーティング２０２３（１回目）（主催：鳥取県本人ミーティング委員会）

８月１日　鳥取県図書館大会
第３分科会「【学び方体験】広げよう！読書のカタチと楽しみ
英語学習から見えてきたディスレクシア（読み書き障がい）への寄り添い方」
（主催：鳥取県図書館協会　共催：鳥取県公共図書館協議会、鳥取県学校図書館協議会、鳥取県書店商業組合、認定NPO法人本の学校、鳥取県立図書館）

８月９日　認知症本人ミーティング２０２３（２回目）（主催：鳥取県本人ミーティング委員会）

８月２５日　図書館業務専門講座
「障がい者サービスの始め方～地域での読書バリアフリーを実現するために～」
（主催：鳥取県立図書館）

１１月１１日　サピエ図書館普及イベント（場所：イオンモール日吉津）

１２日　サピエ図書館普及イベント（場所：イオンモール日吉津）
２３日　サピエ図書館普及イベント（場所：イオンモール鳥取北）
３月１３日　バリアフリー映画上映会（主催：鳥取県立図書館）
定例開催　　手話で楽しむおはなし会（毎月１回）

4　広報活動
NHK ラジオ広報：サピエ図書館普及イベント、バリアフリー映画上映会
啓発パネルの貸出（11月より開始）：実施館　公共図書館6館、私立高校1館、特別支援学校1館、
大学図書館2館　計10館
館内展示：「世界自閉症啓発デー、発達障害啓発週間」（4月）
「手話言語条例、制定10周年!」（11～12月）
「バリアフリー映画関連展示」（3月）
出前図書館の実施
6月20日　「ロービジョン相談窓口つながるサロン」
（主催：鳥取県ロービジョン相談窓口、鳥取県ライトハウス点字図書館）
7月27日、28日「子どものための福祉機器展」（主催：鳥取県、鳥取県教育委員会）
8月20日　「鳥取らくだカンファレンス4th」（主催：鳥取らくだカンファレンス）
11月7日　「鳥取県身体障がい者福祉大会」（主催：鳥取県身体障害者福祉協会）
3月10日　ロービジョンフォーラム（主催：鳥取県）

5　市町村立図書館、県立学校等の状況把握・情報共有
・アクセシブルな書籍等の所蔵数及び貸出点数等状況調査の実施
高等学校図書館・特別支援学校図書館の利用等の状況調査（４月７日）
鳥取県の図書館統計調査（５月７日）
・市町村立図書館実務担当者連絡会（障がい者サービス）の開催（1月19日）

6　市町村立図書館、特別支援学校図書館、関係機関への訪問
４月27日　桑の実会
５月10日　音訳ボランティアありんこ、鳥取県身体障害者福祉協会、倉吉市立図書館
５月18日　鳥取県作業療法士会、鳥取県ライトハウス点字図書館、鳥取県視覚障害者福祉協会、
鳥取県聴覚障害者協会
６月２日　鳥取盲学校
６月14日　琴の浦特別支援学校
６月20日　見えにくい人を考える会
６月28日　鳥取聾学校ひまわり分校
７月６日　鳥取大学附属特別支援学校
７月11日　皆生養護学校
７月19日　倉吉養護学校
７月27日　鳥取県自閉症協会
８月22日　鳥取療育園
11月　７日　鳥取聾学校
11月　８日　皆生養護学校
11月17日　鳥取療育園

12月12日　琴の浦高等特別支援学校、米子養護学校
12月13日　倉吉養護学校
2月　5日　琴の浦高等特別支援学校、米子養護学校、倉吉養護学校、鳥取養護学校
2月　8日　鳥取養護学校、白兎養護学校、鳥取大学附属特別支援学校
2月13日　特別支援学校校長会
3月14日　公益社団法人鳥取県老人クラブ連合会
3月19日　鳥取県肢体不自由児者父母の会連合会

7　特別支援学校における図書館活用講座の実施
1月25日　鳥取大学附属特別支援学校
2月5日　　米子養護学校

8　館内読書バリアフリー委員会の開催
毎月1回開催

9　職員のスキルアップのための研修の受講
7月13日　鳥取県立図書館職員研修「認知症を知り支え合おう」
10月3日　気軽に筆談セミナー

10　講師派遣
6月29日　北栄町小・中・高等学校図書館職員交流研修会
8月8日　　鳥取県特別支援学校図書館教育研究会
9月12日　大山町学校図書館司書研修会
11月12日　鳥取市小学校図書館司書連絡会

11　その他
【県内図書館の状況について】
（1）障がい者サービス利用登録実施館　※19市町村中7館実施
鳥取県立図書館　鳥取市立図書館、倉吉市立図書館　米子市立図書館　境港市民図書館
八頭町立図書館　南部町立図書館、大山町立図書館

（2）サピエ加入館　※19市町村中8館加入
令和2年度以前に加入：鳥取県立図書館、倉吉市立図書館
八頭町立図書館　日吉津村図書館　日野町立図書館
令和3年度加入：境港市民図書館　江府町立図書館
令和4年度加入：南部町立図書館、鳥取市立図書館
令和6年度の加入予定：琴浦町図書館

（3）国立国会図書館視覚障がい者等用データの送信承認館
令和2年度加入：鳥取県立図書館
令和5年度加入：鳥取聾学校、鳥取盲学校、倉吉養護学校、鳥取養護学校、米子養護学校、
鳥取大学附属特別支援学校

資料 4−2

鳥取県立図書館電子書籍サービスの開始および利用状況について

図書館では、遠隔地居住者の利便性や利用者ニーズに配慮した非来館・非接触サービスの推進、図書館利用に困難のある方などの読書バリアフリー環境の充実に資するため、電子書籍サービスを開始した。

1 電子書籍サービスの概要

開始日：令和6年1月4日（木）（令和5年12月1日（金）から令和6年1月3日（水）までは試行期間）
利用できる電子書籍：KinoDen（紀伊國屋書店）
利用方法：図書館の電子書籍に利用者がアクセスする（1冊の本に同時にアクセスできるのは1名）
利用可能冊数：1,607冊（専門書、学術書、英語多読用資料等、令和5年度末現在）
※ 県立図書館のカード保有者だけでなく、市町村立図書館や学校図書館のカード保有者も利用可能

2 蔵書構成

（令和 5 年度末現在）

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	言語	文学
51	84	66	414	208	65	53	41	71	101

（その他） 郷土・県人資料：11冊 児童書：17冊 英語多読図書：425冊 合計1,607冊

3 利用状況

（1）アクセス数
6,538 件（令和5年12月～令和6年3月） 1 日平均 53 件
※システムの設計上、利用の多い年代や時間帯、市町村立図書館等利用者の利用分布など、詳細な統計を取ることはできない。

（2）利用の多い資料（上位5件、集計期間は令和5年12月～令和6年3月）
1 位 『るるぶ鳥取'24』（179件） 2位 『まっぷる鳥取'24』（178件）
3 位 『ふるさとの想い出写真集』（147件） 4位 『本屋という仕事』（101件）
5 位 『It Looks Terrible!（英語多読資料）』（84件）

4 バリアフリー対応の取組について

（1）バリアフリー対応資料の割合（令和 5 年度末現在）
ア 読み上げに対応した資料
650冊（40.4%） ※EPUB リフロー型のみの冊数
イ 拡大に対応した資料
1,607 冊（100%） ※EPUB リフロー型、EPUB固定型、PDF いずれも拡大が可能

（2）アクセシビリティ向上の取り組みについて
ア 鳥取県立図書館電子書籍選書方針に基づき、バリアフリーに対応した資料を積極的に選書している。
イ いただいたご意見をもとにホームページの修正を行った。令和6年度も引き続き改善を進めており、鳥取県ライトハウス点字図書館の協力のもとに音声読み上げ対応資料リストを掲載した。

5 今後の予定

（1）資料の充実

今年度以降、毎年約 1,000 冊ずつ購入予定。音声読み上げ対応資料（EPUB リフロー型）や、調査研究・探究学習等に役立つ資料を充実させる。

（2）利用促進へ向けた取組

今年度秋頃に実施を予定している電子書籍等の普及イベント等、アクセシビリティ向上のために周知や働きかけを行い、利用促進をはかっていく。

資料5

令和5年度 視覚障がい者等の読書バリアフリー環境整備促進事業の実施状況について

令和6年7月22日
障がい福祉課

令和5年度、県内の読書バリアフリー環境を促進していくため、以下の事業を実施。
（主に鳥取県ライトハウス点字図書館に委託して実施）

1 アクセシブルな書籍等の製作等による量的拡大
点字図書館運営費補助金を活用し、対応。

2 端末機器・ICT機器の使用等に係る研修会<予算額:242 千円>
①視覚障がい者等向けに、ICT機器の使用等に関する研修を実施した。（4回、延べ参加人数約 100 名）
②発達障がい等の当事者、支援者向けにマルチメディアデイジーの使用等に関する研修を実施した。
（9回、延べ参加人数約 190 名）

3 点訳・音訳ボランティア向けスキルアップ研修<予算額:125 千円>
点訳・音訳ボランティア団体に所属する者を対象に、点訳・音訳技術向上のため、外部から講師を招聘し、スキルアップ講座を開催した。（点訳:1回、延べ参加人数 19 名、音訳:2回、延べ参加人数 84 名）

4 ライトハウス点字図書館への情報支援員の1名継続配置<予算額:5,054 千円>
ライトハウス点字図書館に読書バリアフリー基本計画の推進に総括的に取り組む情報支援員を1名配置し、読書バリアフリー法に関連する以下の業務を行った。
・県、市町村、関係団体等と連携した読書環境の整備に関する情報交換の実施
・アクセシブルな書籍等の充実に向けた県立図書館及び市町村立図書館等との連携
・学校図書館及び大学図書館と連携した視覚障がい等のある児童生徒学生の読書環境の保障に関する取組
・県立図書館及び市町村立図書館等と連携した、ICT機器を活用した視覚障がい者等への読書機会の提供
・端末機器・ICT機器の使用等に係る研修会
・点訳・音訳ボランティア向けスキルアップ研修
・点字指導員資格認定講習会及び音訳指導員認定講習会への派遣 等

5 マルチメディアデイジー図書普及啓発等のための設備整備及び人材育成事業<予算額:1,500 千円>
マルチメディアデイジー図書を閲覧するためのタブレットを整備し、県内公共図書館のマルチメディアデイジー体験会等で、機器の貸し出し等を行うなど、マルチメディアデイジー普及啓発に努めるとともに、制作ボランティアを養成を行った。

資料6

読書バリアフリー環境整備推進事業について

鳥取県ライトハウス点字図書館

令和５年度　取組実績

・公共図書館巡回

・公共図書館での催事

5/21　倉吉市市立図書館　マルチメディアデイジー体験会
7/1　鳥取市立図書館　多様な読書のカタチ体験会（主催　らっきょうの花）
8/6　大山町図書館　夏休み点字体験会・多様な図書の紹介
8/19　伯耆町図書館　夏休み点字体験会・多様な図書の紹介
10/14　江府町図書館　サピエ周知イベント（機材の貸出）
11/12　湯梨浜町図書館　デイジー体験会

・教育機関訪問・研修開催

4/12　倉吉教育委員会訪問
7/10　岩美町教育委員会・岩美西小学校訪問（マルチメディアデイジー教科書導入に向けて）
1/29　東部　総合教育センター　通級指導研修会（予定）

・療育施設訪問

8/24　療育園視察、保護者向けデイジー紹介（発達障がい未就学）
11/17　療育園視察、保護者向けデイジー紹介（身体障がい未就学）

・支援団体訪問

6/1　ピアサポートつむぎ　訪問

・福祉施設訪問

4/20　あかり広場（グループホーム）へのデイジー図書紹介

・鳥取県立図書館　協力

6/29　北栄町図書館（県立図書館の研修会に参加　職員向けデイジー紹介）
9/12　大山町研修会（県立図書館の研修会に参加小・中学校司書教諭、学校司書、図書館司書）
11/7　鳥取県身体障害者福祉大会（サピエ・デイジー紹介）
11/11、11/12　イオン日吉津　サピエ普及イベント
11/12　鳥取市小学校図書館連絡会（県立図書館での研修会に参加
マルチメディアデイジー紹介）
11/23　イオン鳥取北　サピエ普及イベント

・その他

6/24　皆生スポーツ広場参加（米子サンアビリティーズ）デイジー図書紹介
8/26　皆生スポーツ広場参加（皆生養護学校体育館）デイジー図書紹介
多様な障害のある方が参加（年齢層　児童～成人）
⇒マルチメディアデイジーの利用者に
機器（iPad）は当館から貸出⇒利用サポートは境港図書館に協力依頼・快諾
9/17　特別支援教育士研修会（ピアサポートつむぎ）マルチメディアデイジー教科書紹介

10/8　医療法人養和会合同施設祭「はあつ」参加　デイジー、マルチメディアデイジー紹介
⇒マルチメディアデイジーを体験された方が継続利用を検討中
機器（iPad）は当館から貸出　盲ろう者支援センターと連携

・イベント会場での啓発
7/27　福祉機器展（鳥取養護学校）
7/28　福祉機器展（皆生養護学校）
8/20　らくだカンファレンス（視線入力ソフトの普及イベントにてデイジー図書の紹介）

点訳・音訳スキルアップ研修
点訳：8/23　中四国点字図書館大会　米子コンベンションセンター開催　点字研修
県内ボランティア参加者数：１９名
音訳：8/23　中四国点字図書館大会　米子コンベンションセンター開催　音訳研修
県内ボランティア参加者数：３５名
9/26　音訳スキルアップ研修　テーマ：校正について
講師：元香川県視覚障害者福祉センター　香川　恵様
参加者数：４９名

点訳・音訳ボランティア養成研修
R5 年度は休止　（既修了者のフォーローアップに注力）
R６年度は実施予定

マルチメディアデイジー図書製作人材の育成
・既存の音訳ボランティア（西部エリアボランティア）から数名に依頼
・必要機材　対応 PC・ソフトの購入
・白兎養護学校より選書アドバイスを頂き、製作開始

資料7—1

読書バリアフリー推進に係る令和6年度の取組計画

令和6年7月22日
鳥取県立図書館

1 関係機関との連携

（1）関係者協議会の実施（年３回）
- 第１回７月２２日、第２回１１月２９日、第３回２月頃予定
- 中間評価の実施
- 委員の増員：鳥取県肢体不自由児者父母の会連合会、鳥取県老人クラブ連合会

（2）市町村立図書館、特別支援学校、関係機関への訪問
- ５月３０日　皆生養護学校
- ６月　６日　米子養護学校
- ６月２１日　鳥取盲学校
- ６月２５日　鳥取県自閉症協会
- ７月　５日　倉吉養護学校
- ７月　９日　鳥取聾学校

2 市町村立図書館等との連携

（1）障がい者サービス実務担当者連絡会（冬頃実施予定）
（2）アクセシブルな書籍等の所蔵数及び貸出点数等状況調査の実施
（４月１８日　高等学校図書館・特別支援学校図書館の利用等の状況調査
４月１８日　鳥取県の図書館統計調査）
（3）啓発パネルの貸出（秋以降）

3 はーとふるサービスの充実

（1）アクセシブルな資料、機器等の充実
（2）手話・字幕付図書館紹介動画のリニューアル
（3）動画（手話・字幕付図書館紹介）のＱＲコード付はーとふるサービスリーフレット作成
（4）認知症の方等が利用しやすい図書館になるよう館内案内標示の整備（別紙７－２）

4 研修・講座・イベント等の実施

７月３１日　第29回鳥取県図書館大会第２分科会（チラシ別添）
主　催：鳥取県図書館協会　共催：鳥取県立図書館
テーマ：「読書バリアフリーについて考える～必要とする人に適切な方法で～」
登壇者：谷口慎二氏（鳥取県見えにくい人を考える会副会長）
古田晶子氏（鳥取県立鳥取聾学校司書）
前田晶子氏（倉吉市立図書館主幹）
コーディネーター：藤井美華子氏（琴浦町図書館係長）

１１月２８日　第３回図書館業務専門講座（図書館員向け研修講座）
主　催：鳥取県立図書館
テーマ：「読書バリアフリーと図書館」（仮）
講　師：佐藤 聖一 氏（埼玉県立久喜図書館 司書主幹）
松井　進　氏（千葉県立西部図書館）

・県民対象：手話で楽しむおはなし会、バリアフリー映画上映会
・図書館員、教職員対象：マルチメディアＤＡＩＳＹ普及講座、図書館業務専門講座
・特別支援学校対象：図書館活用講座

5 研修・講座等への参加
・日本図書館協会障害者サービス担当職員養成講座（入門）
・伊藤忠記念財団オンデマンド配信特別研修「読書のバリアフリーをすすめるために」

6　講師派遣
６月１２日　令和6年度図書館司書専門講座
８月２３日　特別支援学校図書館教育研究会

7　広報活動
サービス説明
・LD 等専門員連絡会（4月8日）
出前図書館の実施
・鳥取県老人クラブ連合会理事会（5月8日）
・子どものための福祉機器展（7月25 日、26 日）予定

8　館内読書バリアフリー委員会の開催
毎月１回

9　その他
【県内図書館の状況について】
（１）障がい者サービス利用登録実施館　※１９市町村中７館実施
鳥取県立図書館　鳥取市立図書館、倉吉市立図書館　米子市立図書館　境港市民図書館
八頭町立図書館　南部町立図書館、大山町立図書館

（２）サピエ加入館　※１９市町村中９館加入
令和２年度以前に加入：鳥取県立図書館、倉吉市立図書館
八頭町立図書館　日吉津村図書館　日野町立図書館
令和３年度加入：境港市民図書館　江府町立図書館
令和４年度加入：南部町立図書館、鳥取市立図書館
令和６年度加入：琴浦町図書館

（３）国立国会図書館視覚障がい者等用データの送信承認館
令和２年度加入：鳥取県立図書館
令和５年度加入：鳥取聾学校、鳥取盲学校、倉吉養護学校、鳥取養護学校、
米子養護学校、鳥取大学附属特別支援学校
令和6年度加入：鳥取聾学校ひまわり分校、皆生養護学校

資料7—2

図書館を活用した「あんしん健康ライフ」応援事業
「みんなが安心して通える図書館に!館内標示を考えるワークショップ」

【日時】 令和6年 6 月26日（水）午後 2 時から午後 3 時まで
【会場】鳥取県立図書館 2階 大研修室
【主催】鳥取県立図書館
【備考】鳥取県東部で偶数月に開催されている「認知症本人ミーティング」を兼ねる。
【参加人数】認知症の本人 7人、関係者 14人
（1）内容
令和 5 年度に当館で開催された「認知症本人ミーティング」でいただいた、「館内標示が床にあるとわかりやすい」「トイレの場所がわかりやすいとよい」という意見を基に、認知症の本人や関係者（家族、県関係課職員、関係機関職員）とわかりやすい館内標示について話し合った。具体的には、色や標示方法（目的地まで線を引くか、分岐点や側面に標示を点在させるか）、種類（トイレ・エレベーター・中央カウンターのみとするか、各コーナーを含めるか）等について検討した。
（2）検討内容
・色について
標示は白黒ではなく色がついている方がわかりやすい。文字の色は、濃く鮮やかな背景色に白抜きが見やすい。背景色は、緑、黄色、水色などが見やすい。但し、黄色や淡いピンクには黒い文字が良い。
・ピクトグラムについて
ピクトグラムはあった方がわかりやすい。トイレのピクトグラムはモノクロではなく、館内の他の標示と同じように、女性と男性に色がついている方がよい（女性は赤、男性は青）。
・標示方法について
玄関から目的地まで線を引いてあるとわかりやすいが、標示が点在しているだけで場所にたどり着ける。途中から通路に出てきた人にとっても、点在方式の方がよいのではないか。
・種類について
「トイレ、エレベーターと部屋（郷土資料室、児童図書室）の案内が同じでわかりづらい。縁取りをする、形を変えるなどしたほうがよい」という意見と「一般書などの情報が更に増えると分かりづらくなる。情報が少ない方がよい」という意見が出た。ワークショップ終了後、床に並べられた標示案の中から、トイレを探し出すのに時間がかかったという声をいただいた。
（3）検討内容を受けた標示案（裏面参照）
白黒ではなく、背景色を付けたものとする。トイレのピクトグラムは色付きとする。標示方法は、点在方式とする。種類はトイレ、中央カウンター、エレベーターとする。
（4）課題
色について、より多くの方にわかりやすく視認性の高いものとなるよう検討する必要がある。

【写真1】

【写真2】

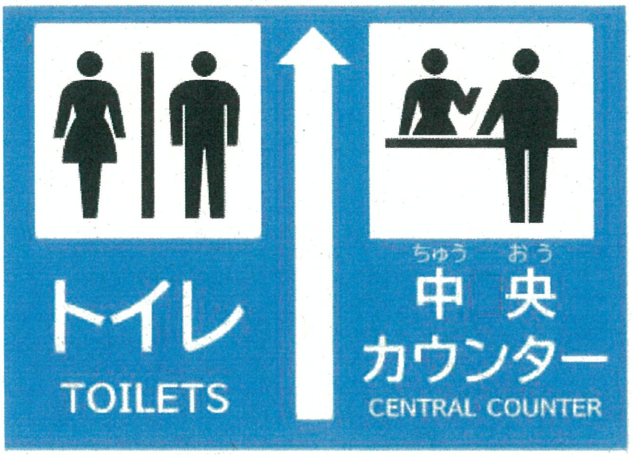
【写真1】ワークショップの様子。標示案を見比べ、色を検討。【写真2】標示案を床に置き、 字の大きさを確認。

【標示案】

標示（トイレ、中央カウンター、エレベーター）を玄関、階段手前、トイレ手前、本棚の側面等、必要と思われる場所に点在させる。中央カウンターには常に職員がおり、案内所として利用できるため、標示案を作成している。

標示案では、同じ方向にあるトイレと中央カウンターを同じシートに記載し、背景色を濃い水色、文字と矢印を白抜きとしている。「トイレ」と「受付」のピクトグラムをそれぞれ使用。

エレベーターは、背景色を黄色、文字と矢印を黒にしている。「エレベーター」のピクトグラムを使用。



資料8

令和6年度 視覚障がい者等の読書バリアフリー環境整備促進事業について

令和6年7月22日
障がい福祉課

令和6年度も県内の読書バリアフリー環境を促進していくため、引き続き以下の事業を実施する。

1 アクセシブルな書籍等の製作等による量的拡大
点字図書館運営費補助金を活用し、対応。

2 端末機器・ICT機器の使用等に係る研修会<予算額 242 千円(R5:242 千円)>
①視覚障がい者等向けに、ICT機器の使用等に関する研修を実施する(年3回程度)
②発達障がい等の当事者、支援者向けにマルチメディアデイジーの使用等に関する研修を実施する(年6回程度)
※実施はライトハウス点字図書館へ委託

3 点訳・音訳ボランティア向けスキルアップ研修<予算額:125 千円(R5:125 千円)>
点訳・音訳ボランティア団体に所属する者を対象に、点訳・音訳技術向上のため、外部から講師を招聘し、スキルアップ講座を開催する。(点訳・音訳それぞれ1回ずつ開催予定)
※実施はライトハウス点字図書館への委託

4 点字指導員資格認定講習会及び音訳指導員認定講習会への派遣<予算額:208 千円(R5:208 千円)>
ライトハウス点字図書館の職員、点訳・音訳ボランティア活動に長年携わっている者を点字指導員資格認定講習会及び音訳指導員認定講習会へ派遣することで、県内の点訳・音訳奉仕員養成研修のレベルアップを図る。
※派遣事務はライトハウス点字図書館へ委託

5 ライトハウス点字図書館への情報支援員の1名継続配置<予算額:5,114 千円(R5:5,054 千円)>
ライトハウス点字図書館に読書バリアフリー基本計画の推進に総括的に取り組む情報支援員を1名配置し、読書バリアフリー法に関連する以下の業務を行う。
・県、市町村、関係団体等と連携した読書環境の整備に関する情報交換の実施
・アクセシブルな書籍等の充実に向けた県立図書館及び市町村立図書館等との連携
・学校図書館及び大学図書館と連携した視覚障がい等のある児童生徒学生の読書環境の保障に関する取組
・県立図書館及び市町村立図書館等と連携した、ICT機器を活用した視覚障がい者等への読書機会の提供
・端末機器・ICT機器の使用等に係る研修会
・点訳・音訳ボランティア向けスキルアップ研修
・点字指導員資格認定講習会及び音訳指導員認定講習会への派遣 等

6 マルチメディアデイジー図書普及啓発等のための設備整備及び人材育成<予算額:1,500 千円(R5:1,500千円)>

マルチメディアデイジー図書をを保存するための機器等を整備し、研修等を行いマルチメディアデイジー普及啓発に努める。

また、図書作成のための機器を整備し、制作を行うとともに、制作ボランティアを養成する。

※実施はライトハウス点字図書館へ委託

7 その他

県立図書館、鳥取県ライトハウスとも連携し、県関連のイベント等において、読書バリアフリーに関する啓発を行う。

・ ロービジョン相談窓口主催のつながるサロン

・ 子どものための福祉機器展 等

資料9

読書バリアフリー環境整備推進事業について

鳥取県ライトハウス点字図書館

令和6年度取組予定

これまで同様、（教育・福祉・医療）関係機関との連携・体制構築を目指し以下の取組を継続。

・公共図書館巡回・・・情報交換、協力体制の確認、催事等での住民への周知活動協力
本年度初回の図書館巡回は４月から５月中旬までに全19市町村図書館を実施済み
（本年度から各視覚障がい者支援センターとも連携して巡回を実施）

イベント（実施が決定しているイベント）

・倉吉市立図書館６/２３　音声デイジー体験会
・大山町立図書館６/２６　マルチメディアデイジー体験会（ことばを育む会大山支部と共催）

・教育機関・療育機関・支援団体・福祉施設への訪問・・・普及啓発、協力依頼
・体験会、研修会等　随時開催・実施依頼対応
・個人利用者へのフォロー　利用状況把握など
・ボランティア　スキルアップ研修の開催
新規点訳・音訳ボランティア養成研修の実施（西部で開催）
マルチメディアデイジー製作人材の育成

機器の貸出し（施設・公共図書館にお試し用貸出）

・鳥取県立総合療育センター（入所児童及び外来受診児に使用）
・公共図書館：日吉津村図書館（日吉津小学校での様々な読書の授業に使用）

【取組のポイント・目標】

・利用当事者の方への個別アプローチ・支援
・利用対象者が参加するイベントなどに参加
・利用対象者の重点的拡大（知的障害、高齢者等）
・県民全体に対するアプローチ
「アクセシブルな図書が図書館で借りられる」ことの周知
・マルチメディアデイジー図書普及・周知